

## ス モ ー ク ツ リ ー

### 同志社女子部の風物詩



ハグマノキ、別名スモークツリー。中国中部、ヒマラヤから南欧に分布、と言ってしまうばそつけない。じつは同志社女子部の古い卒業生には懐かしい樹であり、M・F・デントンにちなむ銘木でもあった。武間富貴著『スモークツリー』の巻頭のこの樹の写真に詩のように添えられた次の文はよくその気分をあらわしている。

デントン先生によってその昔（大正初期）／ジェームス館前の芝生に植えられた／スモークツリーの若木／今は大木になって毎年美しく／花を咲かせて初夏をしらせてくれる／同志社ガールズにとっては／なつかしい風物の一つである。

いまこの樹は栄光館の向って左と新心館前の庭園にあり、五、六月には枝先に二〇センチ程の見事な円錐花序をつくり、沢山

の小さな五弁花を開く。それがもやつて煙のように見えるところからこの名がついたという。一九九五年女子大学の田辺キャンパスに東門が設けられたとき、その通路にも植樹されたが、まだ若木で学生たちに初夏を知らせるほどには馴染んでいないばかりか、存在さえも気付かれていないのではないか。

全国的にも珍しかったらしく、昔見た植物図鑑には「同志社女子部構内にある」と紹介されていた記憶がある。しかし最近の図鑑を見ると「一八七〇年に渡来、京都の同志社大学の大木は有名」とあって少しがっかりした。ともあれ、スモークツリーがたんなる庭木の一つとしてではなく、デントンと結びつけてカレッジフラワーとして「同志社ガールズ」に親しまれてきたことを大切にしたい。

宮澤 正典  
（女子大学生活科学部教授）